

平成 30 年度 事業計画 (美術館)

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

公益目的事業 2 (展覧会事業)

1. 「寛永の雅」展の開催

- ア. 名称 「寛永の雅 江戸の宮廷文化と遠州・仁清・探幽」
- イ. 会期 平成 30 年 2 月 14 日 (水) ～平成 30 年 4 月 8 日 (日)
- ウ. 概要 江戸幕府が成立し、新たな時代の幕開けとともに花開いた文化、それが「寛永文化」です。寛永文化は「きれい」という言葉に象徴される瀟洒で洗練された造形を特徴とし、当時の古典復興と相まって、江戸の世にそれまでになかった「雅」な世界を出現させることになりました。本展では寛永文化の中心にあった後水尾院と宮廷文化をはじめ新時代の美意識が、小堀遠州、野々村仁清、狩野探幽らの芸術に結実していく様子をご覧ください。
- エ. 展示 「源氏物語絵巻」 住吉具慶 五巻のうち第二・三巻 MIHO MUSEUM
「瀬戸肩衝茶入 銘飛鳥川」 湯木美術館
「桐鳳凰図屏風」 狩野探幽 サントリー美術館
「白釉円孔透鉢」 野々村仁清 MIHO MUSEUM
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：なし

2. 「清朝皇帝のガラス」展の開催

- ア. 名称 「ガレも愛した—清朝皇帝のガラス」
- イ. 会期 平成 30 年 4 月 25 日 (水) ～平成 30 年 7 月 1 日 (日)
- ウ. 概要 中国ガラス工芸が飛躍的な発展を遂げた清王朝時代、特に第 6 代乾隆帝の治世に栄華を極めます。ガラスと言えば、「透明性」と「はかなさ」が最大の魅力ですが、最盛期の清朝のガラスは「透明」と「不透明」の狭間で、重厚で卓越した彫琢が際立っています。その美しさはエミール・ガレをも魅了し、彼の造形に取り込まれていきました。本展では清朝皇帝のガラス美をガレの作品とも比較しながら、有数のコレクションでご紹介します。
- エ. 展示 「青地赤茶被魚蓮文瓶 乾隆年製銘」 ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
「白地二色被花鳥文瓶」 サントリー美術館
「花器 カトレア」 エミール・ガレ サントリー美術館
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：なし

3. 「琉球王国の美」展の開催

- ア. 名称 「琉球王国の美（仮称）」
- イ. 会期 平成30年7月18日（火）～平成30年9月2日（木）
- ウ. 概要 琉球王国では、豊かな風土を背景に華やかな染織やきらびやかな漆芸など独自の美が生み出されました。本展では、東アジアの文化を結び新たな美としてひらいた琉球王国の輝きを、琉球王家尚家伝来品をはじめとする琉球美術の貴重な品々でご紹介します。特に、中国・日本といった周辺各国から刺激を受けた絵画は、東京で紹介されることは少なく、貴重な機会となります。
- エ. 展示 「白地流水蛇籠に桜葵菖蒲模様衣裳」 沖縄県立博物館・美術館
「白沢之図」城間清豊（自了） 沖縄美ら島財団
「神猫図」山口宗季（呉師虔） 那覇市歴史博物館
国宝「玉冠（付簪）」 那覇市歴史博物館
- オ. 備考 共催：読売新聞社 巡回：なし

4. 「醍醐寺」展の開催

- ア. 名称 「京都・醍醐寺 --真言密教の宇宙--」
- イ. 会期 平成30年9月19日（水）～平成30年11月11日（日）
- ウ. 概要 京都にある醍醐寺は真言密教の拠点として古くから歴史の表舞台で重要な役割を果たしてきた名刹です。本展では、国宝・重要文化財に指定された仏像や仏画を中心に、普段は公開されない貴重な史料・書籍を通じて平安時代から近世にいたる醍醐寺の変遷を辿ります。また、桃山時代に豊臣秀吉が行った「醍醐の花見」や、三宝院の襖絵など醍醐寺をめぐる華やかな近世美術もご紹介します。
- エ. 展示 国宝「文殊渡海図」 京都・醍醐寺
重要文化財「如意輪観音坐像」 京都・醍醐寺
国宝「五大尊像」 京都・醍醐寺
重要文化財「醍醐花見短冊」 京都・醍醐寺
- オ. 備考 共催：日経新聞社 巡回：九州国立博物館

5. 「扇の国、日本」展の開催

- ア. 名称 「扇の国、日本（仮称）」
- イ. 会期 平成30年11月28日（水）～平成31年1月20日（日）
- ウ. 概要 細く折り畳める「扇」が、日本の発明品であることをご存知でしょうか。扇は、宗教祭祀や日常生活、芸能や遊戯の場など日本人の暮らしと深く関わり、装飾的に発展してきました。常に携帯できる扇は、いつでもどこでも楽しめる最も身近な「生活の中の美」であり、さらには屏風や巻物そして工芸や染織などとも結びついて多彩な作品を生み出しました。本展では日本人が愛した悠久の扇の世界をご紹介します。

- エ. 展示 「国宝「扇面法華経」 四天王寺蔵
重文「扇面貼交手笥」 大和文華館蔵
「黒地扇面散模様振袖」 京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵
「扇面流図屏風」 六曲一双のうち右隻 出光美術館蔵
- オ. 備考 共催：朝日新聞社 巡回：山口県立美術館

6. 未定

- ア. 会期 平成 31 年 2 月 6 日（水）～平成 31 年 3 月 31 日（日）

収益事業

1. 物販事業

平成 29 年 5 月に契約を締結した新たな委託先（ノムラデベロップメント）との連携を一層深め、販売促進とミュージアムショップとしてのブランド力強化を推進する。

当館ならではのオリジナリティのある商品開発と品揃えの充実を図り、購買喚起力のある店頭ディスプレイの強化を促進する。

(1) 商品開発

展覧会の詳細、出展作品画像など早期の情報提供に努め、十分な推敲を重ねて、「定番アイテム」＋「提案型アイテム」の両輪でオリジナルグッズの開発を進める。また、収蔵品担当（学芸）とも連携を図り、様々なアイデアを出し合い、ディスカッションを重ねながら、サントリー美術館ならではの創造性あふれる商品開発を目指す。

(2) 店頭ディスプレイ

展覧会鑑賞者から偶発的な立寄り客まで、幅広い層にアピールできる店内ディスプレイ、POP 設置を実践する。また、四季の変化・季節催事をいち早く取り入れるなどの積極的な仕掛けや、ガラス越しに店外へ向けた告知・ディスプレイも行い、ミッドタウンを行き交うお客様の誘致も心掛ける。

(3) 販売戦略

当館のこれまでの知見と新委託先の強みを活かした販売戦略を協議・構築し、物販事業の売上拡大を図る。

2. 飲食事業

創業 152 年となる「加賀麩 不室屋」の老舗ならではの信頼感とブランド力を活かしつつ、現代の感性を取り入れたメニューを提供し、新規顧客の拡大とリピーターの増加を目指す。

(1) フード

展覧会ごとのオリジナルスイーツや、金沢の不室屋カフェと連動した季節のランチなど、限定メニューの開発に一層注力し、鮮度の維持、リピート客の取込みを心掛ける。

また、価格の見直しも含めて売上増の打ち手を積極的に検討する。

(2) 物販

売上増を図り物販のテコ入れを行う。手土産として手軽に購入できる価格帯のアイテムをより充実させ、さらに、店舗入口に商品陳列棚を設置して物販売上増を図る。

(3) その他

不室屋本社の外観写真や、商品（麩）を用いた料理写真のパネルを店内に掲出し、「不室屋」ブランドの認知向上、ブランド力の強化を促進、売上増に結びつける。

3. 貸室事業

「茶室」の貸出により収益を得るだけでなく、当館ならではの価値の訴求に寄与し、結果として日本のお茶文化の普及にも貢献していく。

また、インバウンド需要が拡大している実情を踏まえ、ホールの「MICE利用」の取り組みを開始する。

以 上